

福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議ワーキンググループ全体会合（第1回）の議事要旨

日時：令和3年9月1日（水）16時00分～18時00分

場所：オンライン開催

参加：関係自治体 福井県、敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町

関係府省庁 内閣官房、文部科学省

電力事業者 関西電力、北陸電力、日本原子力発電

事務局 資源エネルギー庁、近畿経済産業局

議事概要

（1）ワーキンググループの運営

ワーキンググループにおけるオブザーバー参加の取扱い等について了承。

（2）将来像の検討にあたっての討議

将来像の検討に際しての視点（①世の中のトレンド、②重要なトピックス、③地域の状況変化、④地域特性、⑤取組の方向性）について意見交換。

参加者の主な発言

①世の中のトレンド

- ✓ カーボンニュートラル、ゼロカーボン
- ✓ SDGs、ソサイエティ5.0
- ✓ デジタル化、DX

②重要なトピックス

- ✓ 北陸新幹線の延伸（敦賀開業2024年、大阪延伸2046年）
- ✓ コロナ禍による都市部の若者の田園回帰の潮流

③地域の状況変化

- ✓ 人口減少や少子高齢化が加速
- ✓ 医療・教育の地域間格差の拡大

④地域特性

- ✓ 原子力のパイオニア、原子力と共生
- ✓ 災害に強い
- ✓ 日本列島の南北の中心に位置
- ✓ 海、山、里などの美しい自然、豊かな地域資源を活かした食文化

- ✓ 電力料金が比較的安価
- ✓ 田園集落ならではの支え合い・つながり・温かみ

⑤取組の方向性

- ✓ 原子力を含めたゼロカーボンの先進地として人材育成・技術開発を推進
- ✓ グリーンとデジタルを成長エンジンとするスマートエリアの形成
- ✓ 美しい海岸、豊かな自然に囲まれたリフレッシュエリアの形成
- ✓ 高速炉等の技術開発の実施
- ✓ 試験研究炉に関連した産官学の研究開発・人材育成機関の集積
- ✓ 様々な CO₂ フリー電源からの水素製造、VPP・混焼発電、ステーション整備、蓄電池の活用等の水素サプライチェーンの整備と、EV・水素バス等の推進
- ✓ 地元企業の育成・参入による廃炉産業の集積、水素、アンモニアの備蓄基地化と関西・中京へのパイプライン整備
- ✓ ゼロカーボン電力を活用したデータセンターやデジタルサービスの集積
- ✓ 都市 OS・情報プラットフォームを活用したデジタルサービスの実証
- ✓ 農林水産業のブランド化、6次産業化、スマート化
- ✓ デジタル技術を活用した遠隔教育・遠隔医療などの格差を克服する取組
- ✓ 北陸新幹線延伸を捉えた交流人口の拡大（誘客、リモートワーク）
- ✓ リアルなエネルギー教育の場
- ✓ ローカル 5G や道路等のインフラの強靭化
- ✓ 地域のニーズをくみ取った取組の推進

福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議 ワーキンググループ全体会合（第2回）の議事要旨

日時：令和3年10月21日（木）10：00～12：00

場所：オンライン開催

参加：関係自治体 福井県、敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町

関係府省庁 内閣官房、文部科学省

電力事業者 関西電力、北陸電力、日本原子力発電

オブザーバー 小浜市、若狭町、福井県経済団体連合会（書面参加）

事務局 資源エネルギー庁、近畿経済産業局

議事概要

（1）将来像の骨子の素案

これまでの共創会議及びワーキンググループでの意見交換を踏まえ、事務局が提示した将来像の骨子の素案について意見交換を実施。

参加者の主な発言

①将来像の骨子の素案の方向性について

- ・「ゼロカーボンを牽引する地域」、「スマートで自然と共生する持続可能な地域」との将来像の骨子に理解・賛成。
- ・将来像を具体化するには、実効性のある計画と財源が必要。また、毎年検証する仕組みが必要。
- ・ゼロカーボンを軸に、今後の嶺南地域の将来を描いていく点について、電力事業者としても共感。

②具体的な取組について

- ・原子力の圧倒的集積が地域の魅力・競争力の源泉となるような取り組みが必要。
- ・原子力の研究開発、人材育成の面で、嶺南地域が西の拠点として、どのように貢献できるかという視点が必要。
- ・嶺南地域での廃止措置関連、資源加工処理の可能性を議論し、新たな廃炉ビジネスの確立に向けて取り組みたい。
- ・廃止措置をビジネスに繋げていく観点から、デジタル化、見える化することを含め、現在の廃止措置の経験をしっかりと集約していくことが肝要。
- ・嶺南地域で持続的な活動を進めて行くとの観点から、地元原子力関連企業の技術水準の向上について引き続き取り組んでいく。
- ・廃炉ビジネスの構築と原子力関連人材育成等の取り組みの着実な推進が重要。

- ・廃炉ビジネスについて、規制の問題をクリアし、事業として成り立つような仕組みに高めていくことが必要。
- ・原子力関連産業の雇用の現状を踏まえ、将来どういった付加価値の高い産業へ移っていくべきか分析が必要。
- ・「もんじゅ」の取扱いに関する政府方針に記載されている、高速炉の実用化に向けた技術開発の内容を、地域の中でどのように展開していくのか、共創会議の中で示していく必要がある。
- ・それぞれの市町において同内容の事業を実施するのみならず、各市町の特徴に応じた役割分担を行うことにより、地域全体の発展といった視点が必要。
- ・嶺南地域における水素サプライチェーンについて、水素発電所など具体的にどのような可能性があるのか検討していく必要あり。
- ・農林水産業の産業拠点化や拡大に向けた視点が必要。
- ・北陸新幹線の延伸を好機とし、Uターン、移住、定住促進、観光客誘致に資する取り組みを期待。
- ・防災道路の多重化、強靱化、避難道路の整備の早急な実施を求める。
- ・嶺南地域と嶺北地域との医療格差是正、教育環境の充実を求める。
- ・嶺南地域に国の研究機関を設置し、新しい産業を牽引していくという視点が必要。

福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議 ワーキンググループ全体会合（第3回）の議事要旨

日時：令和3年12月3日（金）17：30～19：00

場所：美浜町役場

参加：関係自治体 福井県、敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町

関係府省庁 内閣官房、文部科学省

電力事業者 関西電力、北陸電力、日本原子力発電

オブザーバー 小浜市、若狭町、福井県経済団体連合会

事務局 資源エネルギー庁、近畿経済産業局

議事概要

- ・地域の将来像と実現に向けた基本的な方向性についての説明
- ・意見交換

これまでに開催した共創会議及びワーキンググループでの意見交換を踏まえ、事務局が提示した「将来像の実現に向けた基本方針」、「将来像の実現に向けた国等の取組例」について、意見交換を実施。

参加者の主な意見

（1）将来像の実現に向けた基本方針について

- ・基本方針の内容は、これまでの共創会議やワーキンググループでの議論を踏まえており評価。
- ・将来像の実現に向け、立地地域が尽力することは当然であるが、対応・克服困難な課題も存在。国や電力事業者の主体的、積極的な取組・支援が必要。立地地域、国、電力事業者が共に協力し、共創していくとの視点が不可欠。
- ・国と電力事業者は、将来像の実現のため、主体的に実効性をもって取り組むことを期待。

（2）将来像の実現に向けた国等の取組例について

- ・取組例について、進捗や改善事項を定期的に共有し、実効性を担保する仕組みが必要。
- ・列挙されている取組のうち、早期に着手可能なものは、来年度予算で実施してほしい。

- ・JR小浜線が減便され、嶺南地域の連携・交流に影響が生じているところ、ゼロカーボンである燃料電池バスを代替運行すれば、新幹線敦賀開業効果を嶺南地域全体へ波及させることができると期待。また、水素関連の国の研究機関の誘致をお願いしたい。
- ・敦賀港の長期構想で、港の北側をエネルギー拠点とする姿を描いている。水素の専焼発電所と組み合わせて実現できないか検討いただきたい。
- ・嶺南大のゼロカーボン交通の拡大は、地域一帯となった取組として広く情報発信することができると期待。
- ・公共交通機関の高度化、防災道路の多重化、強靭化、避難道路の整備等を早急にお願いしたい。
- ・カーボンニュートラル実現のため、安全最優先のもと、原子力発電の持続的な活用に向けて、国と電力事業者は主体的に取り組んでほしい。
- ・原子力はゼロカーボン電力、嶺南地域はゼロカーボンエリアであると、国から積極的な情報発信をお願いしたい。
- ・蓄電施設や水素貯蔵を備えたスマートグリッドを構築することにより、嶺南地域は停電の発生しない安心・安全な地域、カーボンニュートラル100%地域として、発信していくことも一案。
- ・嶺南地域で製造された製品について、ゼロカーボン製品として認定されるような仕組み作りが有効ではないか。
- ・電力事業者には、地域振興のための具体的なプロジェクトのご提案をお願いしたい。発電事業に関するものだけでなく、地域の一員として、WIN-WINの関係を築きながら実施できる取組みを提示いただきたい。
- ・地域のため、地域の一員として、電力事業者としてどのような貢献ができるのかといった視点から検討を行っている
- ・原子力と地域をゼロカーボンでつなぎ、ブランディングし、嶺南地域の先進化に貢献したい。
- ・原子力発電所の立地地域について、様々な施設や取組が充実し、幸せなエリアであると地域住民が実感できるよう取り組んで行きたい。
- ・試験研究炉について、京大炉が期限を迎えるので、早期完成を改めてお願いしたい。
- ・試験研究炉が人材育成や地域経済の活性化にどのように繋がっていくのか、早期に示してほしい。若く優秀な研究者や意欲のある企業が集まる夢のある施設になることを期待。
- ・もんじゅの廃止措置の際、もんじゅ周辺地域は高速炉研究開発の拠点と位置付けられた経緯があることから、共創会議で、具体的な道筋を示してほしい。
- ・もんじゅ、ふげんの廃止措置を着実に進め、得られた知見・経験は、今後の廃止措置のみならず、次世代炉や高速炉を含む革新炉等に活用できるよう、共有していきたい。
- ・原子力リサイクルビジネスには規制面や事業リスクなどの課題が存在。国家プロ

ジェクト的な意味合いを持って、全国初のビジネスモデルを国も一緒になって検討してほしい。

- ・原子力リサイクルビジネスは、社会的に意義のある事業。安全第一に、事業者、国、自治体が一体となり、進めていきたい。
- ・一過性の集客にとまらず、地域の成長にどう結びつけて行くことができるかといった観点から、効果的な観光のあり方を検討していきたい。